

令和3年(2021年)10月1日

第67号

Email:uragabunka@yahoo.co.jp

# 浦賀文化

## 三浦按針と鎖国前夜の浦賀湊

「青い目のサムライ」と呼ばれた三浦按針(ウィリアム・アダムズ)は、造船学・天文学・航海術などの幅広い知識を買われて徳川家康の外交顧問として活躍した。

天正十八年(一五九〇年)、豊臣秀吉による小田原北条氏討伐に功績のあった徳川家康は、関東諸国に領地を与えられました。そして、三浦半島一帯も徳川氏の支配下に置かれました。

◇ ◇ ◇

慶長五年(一六〇〇年)三月、豊後(大分県)に漂着したリーフデ号は、二年前にオランダの港を出航した時にいた百十名の乗組員のうち生存者は二十四名という苦難の航行でした。白杵藩の領主・太田一吉は、アダムズの目的が布教でなく交易にあると知り、豊臣氏五大老の筆頭として大坂城にいた徳川家康に急報しました。リーフデ号が堺に回航されると、家康は大砲や鉄砲などの西洋式武器の積み荷に強い関心を示すとともに、アダムズの持つ天文学や航海術、造船学、西欧事情の知識に好奇心をそそられました。アダムズが持ち込んだ大砲は、関ヶ原の合戦や大坂の陣に、徳川方の戦力として大きな力を発揮しました。

◇ ◇ ◇  
アダムズの来日は、本来、水先案内人である彼の一生に大きな影響をもたらし、「青い目のサ

ムライ」などと呼ばれた数奇な人生が始まったのです。

慶長五年六月、家康は会津征討のために江戸へ行くのに合わせ、アダムズを海路、リーフデ号で浦賀へ入港させ、浦賀からは陸路で江戸へ向かわせました。

慶長八年(一六〇三年)江戸幕府の初代将軍に就任した家康は、アダムズに三浦按針の名を与え、外交顧問として重用しました。ポルトガルやスペインの宣教師による布教への警戒感を抱く幕府にとり、欧州事情に明るい彼の意見は貴重なものだったのです。アダムズは日本橋小田原河岸(のち按針町)に屋敷を授かる一方、大伝馬町の名主の娘を娶りました。

慶長十年(一六〇五年)將軍職を退いた家康は、將軍秀忠の後見役として大御所となり権勢を振いました。この年、アダムズは逸見村に二百二十石の知行地(大名の家臣に与えられた土地)を与えられ、妻と二人の子どもを住ませました。それとともにアダムズは、浦賀にも屋敷を所有し、活動の拠点にしました。この屋敷は「同村山ノ手に按針屋敷と云フアリ」

(「浦賀志録」という記述から、東浦賀の洲崎にある専福寺付近とする説や「東林寺坂下にアンジンヤシキと称する一面に名残を留める」(三浦郡志)という説もあります。また、慶長十三年のころ、カトリック系の修道院が設けられ、宣教師たちを仲介とした貿易代理店ともいうべき外交上重要な施設としても活用されたといえます。その場所は、東浦賀の東林寺と法幢寺の間の山腹辺りとみられています。

元和二年(一六一六年)、家康の死とともに、將軍秀忠の方針が鎖国政策に向かい、中国以外の国との貿易は長崎の平戸に限定されることとなり、アダムズも平戸行きを余儀なくされました。それとともに浦賀湊の貿易港としての役割も終焉を迎え、アダムズの屋敷や修道院は撤去されました。その後、平戸で失意のうちに五十五歳の生涯を閉じました。

アダムズの日本及び日本人の文化に対する友好かつ寛容な態度は、これからも永く語り継がれていくことでしょう。

### 【アダムズ、浦賀湊関連の略年譜】

- 1564 9月・イギリスセント州ジリンガムに生まれる
- 1598 6月・オランダロッテルダムを出航
- 慶長五(一六〇〇) 三月・豊後に漂着、その後、浦賀に回航

九月・関ヶ原合戦

慶長一三(一六〇八) 七月・幕府、浦賀湊にルソソ商船に対する狼藉を禁止する高札をたてる

慶長一三(一六〇八) 八月・フィリピン国の使者、浦賀へ入港し駿河の家康に謁見

慶長一四(一六〇九) このころ、家康の求めにより二艘の船を建造

慶長一五(一六一〇) 幕府、前年上総に漂着した前フィリピン総督ロドリゴに国書を託して浦賀よりメキシコへ出航

慶長一六(一六一一) 商人田中勝介ら日本人も同乗(船はアダムズが建造したサン・ヴェナベンツォラ号)

慶長一八(一六一三) イスパニア大使セバスチャン・ビスカイノが浦賀に来航し、駿府の家康に謁見

慶長一八(一六一三) 八月・イギリス船クロウヴ号司令官セーリス、浦賀に滞在し逸見に住むアダムズの妻に銀製の杯や布を、妻の姉妹と母に布を贈る

慶長一八(一六一三) 大坂冬の陣、夏の陣

元和元(一六一五) スペイン国王の返書を携えた使節が来航

元和二(一六一六) 九月・イギリス商館長コックス、日記に逸見の様子を「浦賀と逸見は馬で行われ、住民たちは徒歩で付き添った。」と記述

元和六(一六二〇) 四月・五十五歳で長崎平戸にて病死 (芳賀久雄)

### ★参考資料

- 続・横須賀人物往来
- 新横須賀市史(公財)横須賀市生涯学習財団
- ・新横須賀市史(通史編近世)横須賀市
- ・三浦半島の史跡(みち)かまくら春秋社



### ●浦賀の問屋●

## 歴史 語らい座 浦賀奉行所編 その十七

郷土史家 山本 詔一



江戸時代の浦賀町には三〇〇軒もの商家があったという。その商人たちは、干鰯問屋・廻船問屋・水揚商人・附船小宿・穀宿・会所などさまざまな名で呼ばれていた。もちろんここに現在の商店である小売業も含まれている。

今回は、浦賀独特の存在であった「廻船問屋」のことをお話ししよう。

浦賀の「廻船問屋」は、通常の歴史用語辞典などに記されている「廻船問屋」ではなく、浦賀奉行所の重要な業務であった「船改め」という、江戸へ出入りするすべての船の荷物と乗組員の検査をする船番所の実務を行った問屋のことを指した。町人であった廻船問屋も、この業務に着いた時には足軽役であったので、名字を名乗ることが許された。

奉行所が伊豆・下田から移転してきた時に、下田時代に同様の業務についていた廻船問屋六三軒が幕府の許可をもらって浦賀へ移ってきた。この問屋たちを「下田問屋」といい、新たに西浦賀から二二軒、東浦賀からは二〇軒（東浦賀はすべて干鰯問屋が兼業）が加わり、全部で一〇五軒となった。東西浦賀と下田問屋を総称して「三方問屋」と呼ばれた。

下田問屋の六三軒はすべて奉行所とともに浦賀へ転居してきたのではなく、浦賀での業務継続権利をとつ

たものに過ぎなかった。事実、西浦賀の住居も仮住まいで、村役銭も七軒分しか負担していない。こうしたことから浦賀の廻船問屋は、初代奉行・堀利喬の「三年を経たら下田問屋は退去させる」という言葉を盾に、下田問屋の追い出しを図ったが、堀奉行の発言の真偽がわからないというところのまま、「船改め」が廃止されるまで続いた。

では、どのように「船改め」は行われたのであるのか。実は入津してくる廻船はそれぞれに問屋が決まっていた。例えばA廻船は下田問屋の「イ」、B廻船は東浦賀の「ロ」という具合であった。問屋の収入は、「問料」と呼ばれた乗組員数×銀一匁八分(時代によって変化した)であり、こうなるとこの業務が長い下田問屋が有利であった。それも時代とともに様相が変化する。

問屋たちは、廻船の乗組員と入港回数をかけた指数で上順・中順・下順・次下順とすべての廻船にランクをつけて、受け持ちの割り替えを考案する。下田問屋はこの案を不本意ながら受け入れた。というのも、船の老朽化や難船などの問題があったからだ。また、東西浦賀の問屋には、干鰯や水揚商品の流通販売の収入があったが、下田問屋の多くは「問料」以外の収入源がなかったという事情もあった。さらに、この割り替えは廻船側に選択権がなく、問屋サイドの了見のみであった。そのため、長年にわたって築いてきた信頼関係(裏

のさまざまなことを含めて)を一方的に解消させられるこのやり方に納得がいかず、トラブルが続いた。

問屋と廻船との関係は、「船改め」だけではなかった。問屋は、廻船が浦賀で停泊し、水主と呼ばれた船乗りたちが上陸した時に宿泊する「船宿」であり、身元保障人でもあった。故に、船宿を通さず勝手に上陸することもできなかった。さらに時代が下ってくると船頭や水主らが自費で仕入れた荷物の売り捌き所の斡旋などもこの船宿を通じて行われており、船と陸を結ぶ信頼関係が一層深いものになっていった。

そのことは、天保時代の株仲間解散令で、浦賀の廻船問屋も解散させられた際に、彼らの存在を一番重要視していた奉行所により、すぐさま名称を「船宿」に変えてそのまま業務が続けられたことから分かる。この船宿が廻船問屋のもう一つの顔であったことを忘れてはいけない。

### 俳句の散歩道

青あらし帆柱騒ぐ入江かな

大塚遊球子

富士を背に迅し鯉の押送船

嶋口 司

### ～展示室よりお知らせ～



船番所の模型をリニューアル中です。完成まであともう少し！お楽しみに！(^\_^)!



奉行所スカリン

### 笑話一題

不要な外出をしないことが、今では当たり前のことになってしまいい、外出といえども、もっぱら散歩に行くことぐらいいなっている。

6月の中旬、海辺のプロムナードを歩いていたら、カモの親子が揃ってスイスイと泳いでいる光景に出会った。テレビのニュースなどで見るカルガモとは種類は違うと思うが、海で見ることができるとは思わなかった。画面越しに見る、春から夏にかけて子どもの成長に伴ってより適した住み家を求めて引越しをする親子の様子は、一種のドラマの様である。浦賀のこの親子はたぶん、新天地へ向かう途中だったのでしょうか、それとも道に迷ったのカモ？何て考えながら微笑ましい光景にしばらく足が止まった。

もちろん！シャッターチャンスでした。今思えば、あの後追いかけだどこまで行くのか見届ければ良かったと後悔している。来年も同じころにまた出会うことがあれば、珍道中に付き合ってみないなと思っている。

T. A

